

新水道ビジョンワークショップ 結果報告（案）

1. 開催概要

日時：平成 24 年 12 月 22 日（土） 13:00～16:00

場所：（社）日本水道協会 7 階会議室

（東京都千代田区九段南 4 丁目 8 番 9 号）

2. 出席者

- 一般参加者 : 計 10 名（3 名欠席）（各地区の水道モニター、学生、一般公募）
- 構成員出席 : 滝沢座長、長岡構成員、平田構成員、吉岡構成員
- 事務局 : 厚生労働省健康局水道課（3 名）、日水コン（ファシリテーター 2 名）

《班構成》

A 班（9 名）	B 班（10 名）
【役割分担】	【役割分担】
一般参加者 5 名（2 名欠席）	一般参加者 5 名（1 名欠席）
滝沢座長（水道の専門家）	長岡構成員（水道の専門家）
平田構成員（検討会構成員代表）	吉岡構成員（検討会構成員代表）
厚生労働省（水道行政の視点で参加）1 名	厚生労働省（水道行政の視点で参加）2 名
ファシリテーター（日水コン）	ファシリテーター（日水コン）

3. ワークショップで得られた主な意見

1) 日本の水道の良いイメージ

- 水道水がおいしい、直接飲用できる。
- 水質基準が守られている、水質検査体制が整っている。
- 水の利便性が高い（いつでもどこでも使用できる）、断水がほとんどない。
- 水が豊富にある。
- 高い水処理技術を有している（海外と比較しても）。
- インフラとして充実している。耐震化の取組が進んでいる。技術の共通化が図られている。
- 水道料金が公的に管理されている。料金体系がわかりやすい。
- 災害のときにも給水できる。災害のときに事業者間の協力体制ができています。

2) 日本の水道の悪いイメージ

- 水道事業者から住民への情報・広報が不足している。
- 水道事業の経営状況が不明確である。
- 地域間で料金格差が生じている。
- 地域間で水道水質に違いがある。
- 災害対策の遅れ、今後の老朽化が懸念。
- 人材の不足（特に中小規模の水道事業）、技術者の育成が進んでいない。
- 水道運営、管理のノウハウが国際展開できていない。
- リーダーシップの欠如。現行の水道ビジョンの位置づけが不明確。
- 簡易水道が抱える問題。

3) 日本の水道のためのアイデア

- 水道事業者からの積極的な情報提供。
（住民との交流、住民参加できる場の構築、提供情報の工夫（漫画など））
- 情報提供におけるマスコミの活用。
- 利き水の実施。
- 民間との連携。
- 水道施設の広域化。
- 住民の意見を反映した水道施設整備。
- 家庭における生活用水の備蓄。
- 水道事業者による浄水器の販売。
- 水道水の宅配。
- 国際的な競争力を身につけるための支援（ODAなど）。

4. 新水道ビジョンへの反映について（案） ～ワークショップを踏まえて～

- 日本の水道は、水質、利便性、断水の少なさ等国际的にも進んでいるが、住民のにとっては「当たり前」のこと。水道の悪いイメージばかりが先行する傾向がある。
- 水道事業者から住民への情報提供によって、改めて日本の水道の良いところがわかってくる。
- 東日本大震災の経験も、日本の水道の良いところがわかるきっかけとなった。
- 現状の水道事業からの情報提供は、その多くにおいて専門用語が多用され、数字ばかりの資料となっている。住民の欲しい情報と行政が発する情報に温度差がある。
- 水道事業と住民が交流し、住民の欲しい情報が何か？を明らかにしていくことが重要である。
- 利き水等のイベントを通じて、交流の場を構築することは可能である。ただし水道のみのイベントでは、なかなか人が集まらない。別のイベント（例：お祭り）と連携するような発想が必要である。
- 利き水を行なっても、水道水とボトルドウォーターとの区別はつかなかった。水道水が美味しくないというのは、イメージ（配水管の錆コブなど）先行による部分がある。
- ひとたび水道事業者と住民との交流ができれば、クチコミで広がっていくもの。先進的な水道事業では好循環サイクルができています。
- 水道事業者が住民とうまく交流していけない理由として、
 - ・ 水道職員の人事異動
 - ・ 水道事業のリーダーシップの欠如等が挙げられる。新水道ビジョンの中でフォローできる部分もある。
- 日本の水道は様々な問題を抱えており、今後も多くの課題を有しているが、情報提供の工夫によって改善できるものは多くある。
- 地域間の水道格差（水質、料金等）はないことが望ましいが、格差があっても仕方ないものではないか。格差については情報提供を通じて説明できる部分もある。
- 「情報提供 → 情報交流 → 関係者間の理解」といった形でコミュニケーションが進むことで、水道にとって困難な課題（例：料金改定）に取り組むことも可能となる。

B班

リーダーシップ

水道ビジョンは通信簿である→連年ではない、主体責任者不在(期限は10年をめぐりに)

水道ビジョンの位置付けがある①H17年時地下水道ビジョン→H24年12月時点で順守51%である→これをどう考えるか?

50年後、100年後先への不安(安心で安全な水が飲めるのか?)

国の中でインフラの位置(特に水道インフラ)の向上

人材

技術者の育成

官民連携

情報

水道料からの脱却(原子力方針と同じ→委員会構成、経営の専門家、他分野(IT)委員も)

住民に対する説明が少なく、役所の中で理解している

現状分析と料金見直し、人口(2010年)1億2800万人、つまり人口の4割強の人が2010年の施設を支える→データサンライジングの必要性

住民の意見がほとんどなく、事業が進められている

情報公開する内容が良い所だけで、都合の悪い事は隠している

住民から出た意見を聞いて→考え等を否定する事なく、一度は役所内で検討する機会を持つ

説明の文が、専門用語や長く難しい文で書かれていて、説明から逃げるイメージ

水道官や設備等の老朽化についての情報が薄い

積極的な情報公開→良い事、悪い事や現状とそこに至るまでの経過と予測

水道に関する状態、状況の見える化(可視化)共

行政

簡易水道はこの新水道ビジョンでどう扱うのか不明→6500ヶ所 400万人分

水の宅配

職員の顔が見えるようにする 共

事業の継続性 共

給水地域に応じた適切な運営方式の選択(民営化?広域化?官のまま?) 共

行政と住民の交流(何が欲しい?情報が欲しい?) 共

行政のトップページに必要な情報をのせる(水道もその中に含める)

国際

外国人が日本に来るの印象→世界最高の水準である。ダボス会議2009年レポート

海外から見た日本の水道、技術、一流、管理、二流、会計、三流、これらから必要となる需要点→管理、会計

水道運営、管理ノウハウが世界であまり展開できていない

人間の活力を世界へ

インフラ

いつでもどこでも安心で安全な水が出る 共

高度経済成長期にしっかりとした水インフラ整備を行ったという歴史

水道水の老朽化→水道水の老朽化も、水道管の老朽化が進んでいて赤水が出る

水圧が高く、管路がしっかりとしている(トイレットペーパーを流せる)

いつでも利用できる 共

断水が世界と比べてあまりない

水道施設(管路など)が古い→更新必要

水道官の経年化で赤水などが出るようなことを聞きます。施設の耐用はどうか?

優先順位、重点地域の設定(住民の意見を反映)

情報(受け手)

水道としては神戸では飲み水が豊富な一方で、安心して使っている。来日の水道からの説明ではほとんど使っていないが、現在は安全な水が確保されています

水道から水が出るのが当たり前で、水に対する危機感が低い

住民参加型かつ受け入れのペーシスを整える

水道に関する状態、状況の見える化(可視化) 共

行政と住民の交流(何が欲しい?情報が欲しい?) 共

マスコミの活用 共

職員の顔が見えるようにする 共

水質

水質検査が基準通りになされている

水がきれい(安心)

水質が良い(完全に蛇口から飲める)

いつでもどこでも安心な水が出る 共

水質、浄水方法などの情報提供

災害

施設の耐震化の進み具合に差がある

防災、震災対策現状、耐震化率を上げる...管渠、配水池、浄水場 住民(断水)1Wrek-30の水機 2Vrek-300 3Vrek-300Z PRと安心感

災害時に備えて、全国若しくは地区毎にネットワークの強化を進めて、安定した水の供給を即、迅速に進めてほしい

海水の浄水処理施設が少ない

優先順位、重点地域の設定(住民の意見を反映) 共

教育

水に関する教育(水質など)が行われているが、あまり浸透してはいないように思われる

技術

水処理技術が世界の中でも優れている

経営

何にどれくらいお金がかかっているのかかわからない

水道料金格差が大きい

事業の継続性 共

水道料金による収入で、水道に関する支出をまかなえない場合に、一般会計から補填をすく行ってしまう

地域によって料金がバラバラ

水道料金の地域格差を少なくするために費用の割合の明示を期待してほしい。そのうえで、住民も水を有効に利用して水道を使える

会計基準不明確(単式・現在・複式)→今後、民間企業並みのバランスシート作成

給水地域に応じた適切な運営方式の選択(民営化?広域化?官のまま?) 共